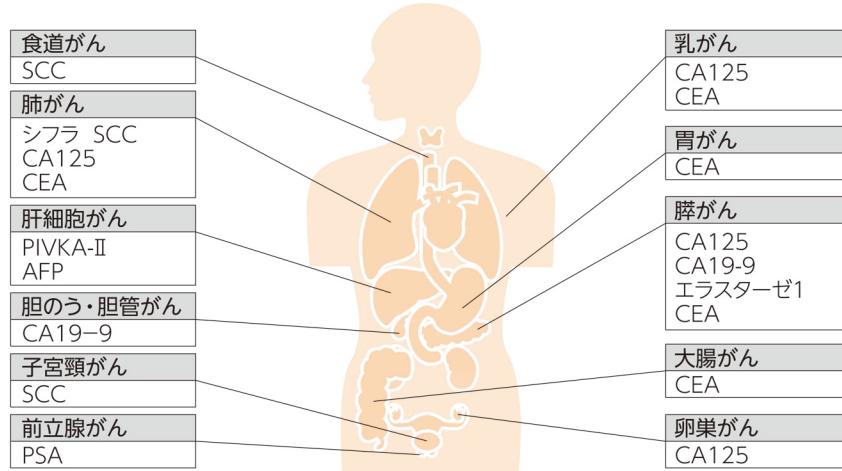


種別	検査項目	異常を指摘されたら	高い場合																																
			<b>異常値の場合、疑われる病気や状態</b> ⚠ 専門医療機関で診断を受けてください。																																
腫瘍マーカー	CEA	内科・消化器科 呼吸器科・婦人科 超音波、CT、MRIなどの画像検査	<p>腫瘍マーカーが陽性であれば、がんの有無を確かめるために、詳しい検査が必要になります。 がんの可能性はありますが、必ずがんがあるとは限りませんし、がんがあつても陽性にならないこともあります。 また、がん以外の良性疾患でも陽性となることがあります。</p> <p>※ 抗p53抗体のように、前がん状態(がんになる前の段階)から陽性を示すものもあります。現在問題がなくても、今のご自身の値から上昇傾向にないかどうか経過を見ることが早期発見につながります。 ※ CA125は、生理中・妊娠中は高値に、閉経後・卵巣摘除後は低値になる傾向があります。</p>																																
	シフラ	呼吸器科																																	
	CA19-9	内科・消化器科																																	
	SCC	内科・消化器科 呼吸器科・婦人科																																	
	エラスター <sup>ゼ</sup> 1	消化器内科																																	
	PSA	泌尿器科																																	
	CA125	婦人科・消化器科																																	
	抗p53抗体	内科・消化器科 婦人科・外科等 超音波、CT、MRIなどの画像検査																																	
種別	検査項目	異常を指摘されたら	高い場合																																
胃部	ペプシノゲン	消化器科 胃内視鏡検査	—																																
	ヘリコバクター <sup>ピロリ</sup> 抗体IgG		胃がん、慢性胃炎、十二指腸潰瘍、胃潰瘍																																
	胃がんリスク検診(ABC検診)		<p>ペプシノゲンとヘリコバクター<sup>ピロリ</sup>抗体検査の結果から、右図のように分類します。胃がんリスクはB&lt;C&lt;D群の順に高リスクとなります。リスクに応じて内視鏡検査や胃部X線検査が必要です。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="2">ABC分類</th> <th colspan="2">ヘリコバクター<sup>ピロリ</sup>抗体</th> </tr> <tr> <th></th> <th></th> <th>(−)</th> <th>(+)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ペプシノゲン</td> <td>(−)</td> <td>A群</td> <td>B群</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(+)</td> <td>D群</td> <td>C群</td> </tr> </tbody> </table>	ABC分類		ヘリコバクター <sup>ピロリ</sup> 抗体				(−)	(+)	ペプシノゲン	(−)	A群	B群		(+)	D群	C群																
ABC分類		ヘリコバクター <sup>ピロリ</sup> 抗体																																	
		(−)	(+)																																
ペプシノゲン	(−)	A群	B群																																
	(+)	D群	C群																																
感染症	抗体価 (風疹、麻疹、おたふく、水痘)	予防接種は、お住まいの地域の保健所、医院、病院等でご相談ください。	—																																
甲状腺機能	TSH(甲状腺刺激ホルモン)	内分泌代謝内科 耳鼻咽喉科	甲状腺や脳下垂体などの疾患が疑われます。																																
	FT3(遊離トリヨードサイロニン)																																		
	FT4(遊離サイロキシン)																																		
	抗TPO抗体		免疫系の甲状腺疾患(バセドウ病、甲状腺機能低下症)などが疑われます。																																
	抗Tg抗体		—																																
アレルギー	動物上皮(ネコ、イヌ、マウス、ラット、モルモット)、ハウスダスト、ヤケヒヨウヒダニ、スギ、カモガヤ、ヒノキ、など	症状により、呼吸器科、耳鼻咽喉科、皮膚科など	<p>吸入系その他アレルゲンの場合は「ペットは週に1回洗ってあげる」「掃除はまめに」「高性能フィルター付きの空気清浄機や掃除機を使う」「外出時はマスク、眼鏡を装着」「帰宅時は、服を払い、うがい、洗顔」「洗濯物は外に干さない」で接触回避を。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2">吸入系 その他アレルゲン</th> <th colspan="2">食べ物系アレルゲン</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>室内塵</td> <td>ヤケヒヨウヒダニ、ハウスダスト</td> <td>卵</td> <td>卵白、オボムコイド</td> </tr> <tr> <td>動 物</td> <td>ネコ、イヌ</td> <td>牛 乳</td> <td>ミルク</td> </tr> <tr> <td>昆 虫</td> <td>ガ、ゴキブリ</td> <td>小 麦</td> <td>小麦</td> </tr> <tr> <td>樹 木</td> <td>スギ、ヒノキ、ハンノキ、シラカンバ</td> <td>豆・穀・種実類</td> <td>ピーナッツ、大豆、ソバ、ゴマ、米</td> </tr> <tr> <td>草 木 類</td> <td>カモガヤ、オオアワガエリ、ブタクサ、ヨモギ</td> <td>甲 殻 類</td> <td>エビ、カニ</td> </tr> <tr> <td>空 中 真 菌</td> <td>アルテルナリア(スカビ)、アスペルギルス(コウジカビ)</td> <td>果 物</td> <td>キウイ、リンゴ、バナナ</td> </tr> <tr> <td>真 菌 そ の 他</td> <td>カンジダ、マラセチア、ラテックス</td> <td>魚・肉 類</td> <td>マグロ、サケ、サバ、牛肉、鶏肉、豚肉</td> </tr> </tbody> </table>	吸入系 その他アレルゲン		食べ物系アレルゲン		室内塵	ヤケヒヨウヒダニ、ハウスダスト	卵	卵白、オボムコイド	動 物	ネコ、イヌ	牛 乳	ミルク	昆 虫	ガ、ゴキブリ	小 麦	小麦	樹 木	スギ、ヒノキ、ハンノキ、シラカンバ	豆・穀・種実類	ピーナッツ、大豆、ソバ、ゴマ、米	草 木 類	カモガヤ、オオアワガエリ、ブタクサ、ヨモギ	甲 殻 類	エビ、カニ	空 中 真 菌	アルテルナリア(スカビ)、アスペルギルス(コウジカビ)	果 物	キウイ、リンゴ、バナナ	真 菌 そ の 他	カンジダ、マラセチア、ラテックス	魚・肉 類	マグロ、サケ、サバ、牛肉、鶏肉、豚肉
吸入系 その他アレルゲン		食べ物系アレルゲン																																	
室内塵	ヤケヒヨウヒダニ、ハウスダスト	卵	卵白、オボムコイド																																
動 物	ネコ、イヌ	牛 乳	ミルク																																
昆 虫	ガ、ゴキブリ	小 麦	小麦																																
樹 木	スギ、ヒノキ、ハンノキ、シラカンバ	豆・穀・種実類	ピーナッツ、大豆、ソバ、ゴマ、米																																
草 木 類	カモガヤ、オオアワガエリ、ブタクサ、ヨモギ	甲 殻 類	エビ、カニ																																
空 中 真 菌	アルテルナリア(スカビ)、アスペルギルス(コウジカビ)	果 物	キウイ、リンゴ、バナナ																																
真 菌 そ の 他	カンジダ、マラセチア、ラテックス	魚・肉 類	マグロ、サケ、サバ、牛肉、鶏肉、豚肉																																

転載:Thermo Fisher Diagnostics K.K.

種別	検査項目	異常を指摘されたら	高い場合	低い場合
			<b>異常値の場合、疑われる病気や状態</b>	
造血機能など	赤血球数	内科・血液内科	多血症など	貧血
	血色素量		出血、骨髄性慢性疾患	血小板凝集、慢性肝炎、肝硬変、血小板減少性紫斑病
	Ht		ストレス、喫煙、妊娠、細菌感染、炎症、白血病など	ウイルス感染、造血能低下、脾機能亢進など
	血小板数			
	白血球数			
肝機能	AST(GOT)	内科・消化器科	AST>ALT: 急性肝炎初期、アルコール性肝障害、肝硬変、肝がん、心筋疾患・筋疾患、溶血など	
	ALT (GPT)		ALT>AST: 急性肝炎、慢性肝炎、過栄養性脂肪肝など	
	γ-GT(γ-GTP)		アルコール性肝障害、慢性肝炎、脂肪肝など	—
	ALP		脂肪肝、骨疾患、甲状腺機能亢進症、胆汁うつ滞、胆管炎、妊娠など	亜鉛欠乏など
	アルブミン		—	低栄養、炎症、肝硬変、ネフローゼ症候群など
	総蛋白		脱水、膠原病、慢性感染症など	ネフローゼ症候群、栄養不良、吸収不全症候群、肝硬変など
	A/G比		免疫低下状態など	低栄養、炎症、肝硬変、ネフローゼ症候群、肝炎、慢性感染、膠原病など
腎機能	尿素窒素	内科・腎臓内科	脱水症、高タンパク食、けが、脱水症、痛風、尿毒症、腎障害など	低タンパク食、妊娠、肝硬変、多尿など
	クレアチニン		脱水症、心不全、腎障害など。	筋肉量減少(筋疾患や低栄養)、肝障害、妊娠など
	eGFR		—	腎機能低下
痛風	尿酸	内科	肥満、飲酒、高プリン体食(動物の内臓、魚の干物など)、腎障害など	低尿酸血症
糖代謝	血糖	内科・糖尿病内科 内分泌代謝内科	糖尿病、内分泌疾患など	糖尿病治療薬、アルコール多飲、胃切除後症候群、内分泌疾患など
	HbA1c		糖尿病など	肝硬変、貧血など
	インスリン		肥満、糖尿病(インスリンが出すぎるタイプ)、肝疾患、末端肥大症、インスリン産生腫瘍など	糖尿病(インスリンが出ないタイプ)、下垂体機能低下、副腎機能低下、低血糖など
	HOMA-R		ご自身のインスリンの効き具合を推測します。	
膵機能	アミラーゼ	消化器科	膵疾患、唾液腺疾患、腎不全など	膵や唾液腺の摘出や機能低下
脂質機能	LDL-ch	内科 内分泌代謝内科	脂質異常症、糖尿病、甲状腺機能低下症、閉塞性黄疸、ネフローゼ症候群など	低栄養、肝疾患、甲状腺機能亢進症など
	HDL-ch		長期多量飲酒など	肥満、運動不足、喫煙、糖尿病、家族性脂質異常症など
	中性脂肪		高カロリー食、肥満、糖質過剰摂取、糖尿病、アルコール多飲、脂肪肝、家族性脂質異常症など	低栄養、甲状腺機能亢進症、家族性脂質異常症など
	高感度CRP		動脈硬化や狭心症など	—
	アポA-1		高HDL血症	HDL-chの変動を示しています。 その他、動脈硬化症、糖尿病、慢性腎不全、肝疾患など
	アポB		LDL-chの変動を示しています。その他、ネフローゼなど	—
	アポE		中性脂肪の変動を示しています。 その他、ネフローゼ、原発性胆汁性肝硬変、糖尿病、閉塞性黄疸等の胆汁うつ滞など	—

# bPlus 血液オプション検査 検査項目の解説

種別	検査項目	検査内容							
	リスク判定	LOX-index®の値をもとに高リスク、中高リスク、中リスク、低リスクの4段階でリスクを評価しています。	<b>LOX-index®(ロックスインデックス)とは</b> 動脈硬化は自覚症状がないまま進行し、ある日突然脳梗塞・心筋梗塞を発症してしまう怖い病気です。ロックスインデックスは、血液中の超悪玉コレステロール(LAB)とその担い手であるsLOX-1を測定・解析することで将来の脳梗塞・心筋梗塞の発症リスクを評価する血液検査です。検査結果で、脳梗塞・心筋梗塞のリスクがあれば予防対策を行い、早い段階からリスク回避することに役立てて頂けます。						
	LOX-index	sLOX-1の値とLABの値を掛け合わせたものがLOX-index®の値です。	<b>発症リスクのレベルを判定</b> <p>今回のLOX-index検査の結果では脳梗塞・心筋梗塞の発症リスクは低リスクと判定されました。LOX-indexの値が低く、動脈硬化のリスクも低い理想的な状態と考えられます。しかし、動脈硬化が原因となる脳梗塞や心筋梗塞は、自覚症状が殆ど無いままで進行して発症に至ります。脳梗塞・心筋梗塞は予防することができるとされる可能性の高い疾患です。日頃からストレッチ等による健康的な生活習慣を維持し、今後も定期的に検査を受け、検査結果に対する総合的なコメントや改善の方向性を提案していきましょう。</p>						
	LOX-1	LOX-1は血液から異物を取り除く働きをしている物質です。このsLOX-1の値が高い方は、血管内での炎症が進んでいると考えられます。							
	LAB	LABは、悪玉コレステロール(LDL)が酸化し、より悪玉化した状態です。LABの値が高い方は、酸化ストレスが進んでいると考えられます。							
LOX-index®	動脈硬化のメカニズム	<p>① 正常な血管の状態です。LDLは、動脈硬化の原因にはならず、各細胞へと運ばれています。</p> <p>② 活性酸素などにより、LDLが酸化され超悪玉コレステロールになります。</p> <p>③ 綺麗な血管</p> <p>④ 超悪玉コレステロールが、LOX-1と結合します。</p> <p>⑤ 白血球が超悪玉コレステロールを食べてしまします。</p> <p>⑥ 白血球が超悪玉コレステロールを消化できず、膿瘍に血管の壁に留まり、脳・心筋梗塞の原因になります。</p>	<p>① ② ③ ④ ⑤ ⑥</p> <p>血管断面図</p> <p>綺麗な血管</p> <p>超悪玉コレステロールが、LOX-1と結合します。</p> <p>結合することにより、炎症が起きます。</p> <p>炎症で少し腫れた血管</p> <p>LOX-1 (ロックスワン) 血管内膜に存在し、血液中に異物があると発現し、血管内皮細胞に障害を起こす。</p> <p>LDLコレステロール 正常なLDLは、細胞やホルモンの原料となる。</p> <p>超悪玉コレステロール(LAB) 活性酸素によって錆び付いたLDL。</p> <p>血管内皮細胞 血管の内膜表面にある細胞。この細胞が障害をうけると血管の構造が壊れる。</p>						
発症リスクのレベル	<table border="1"> <tr> <td>高リスクの場合</td><td>すでに何らかの動脈硬化性疾患が発生している可能性があり、将来に心筋梗塞／脳梗塞を発症する危険性があります。医療機関にご相談の上、血管の状態を詳細に検査することをお勧めします。</td></tr> <tr> <td>中高リスクの場合</td><td>高脂質血症、高血圧といった基礎疾患や動脈硬化性疾患の危険性があります。医療機関にご相談の上、血管の状態を詳細に検査することをお勧めします。</td></tr> <tr> <td>中リスクの場合</td><td>差し迫って危険性はありませんが、高脂質血症、高血圧といった基礎疾患や動脈硬化性疾患になる可能性があります。人間ドック・健康診断を同時に受診された方はその結果も踏まえて医療機関にご相談ください。本検査単独で受診された方は、医療機関にご相談の上で、2次検査を受けるのか、生活習慣の改善に努めてください。</td></tr> <tr> <td>低リスクの場合</td><td>引き続き定期的にLOX-index®を受診し、動脈硬化に伴う疾病リスクを確認してください。</td></tr> </table>	高リスクの場合	すでに何らかの動脈硬化性疾患が発生している可能性があり、将来に心筋梗塞／脳梗塞を発症する危険性があります。医療機関にご相談の上、血管の状態を詳細に検査することをお勧めします。	中高リスクの場合	高脂質血症、高血圧といった基礎疾患や動脈硬化性疾患の危険性があります。医療機関にご相談の上、血管の状態を詳細に検査することをお勧めします。	中リスクの場合	差し迫って危険性はありませんが、高脂質血症、高血圧といった基礎疾患や動脈硬化性疾患になる可能性があります。人間ドック・健康診断を同時に受診された方はその結果も踏まえて医療機関にご相談ください。本検査単独で受診された方は、医療機関にご相談の上で、2次検査を受けるのか、生活習慣の改善に努めてください。	低リスクの場合	引き続き定期的にLOX-index®を受診し、動脈硬化に伴う疾病リスクを確認してください。
高リスクの場合	すでに何らかの動脈硬化性疾患が発生している可能性があり、将来に心筋梗塞／脳梗塞を発症する危険性があります。医療機関にご相談の上、血管の状態を詳細に検査することをお勧めします。								
中高リスクの場合	高脂質血症、高血圧といった基礎疾患や動脈硬化性疾患の危険性があります。医療機関にご相談の上、血管の状態を詳細に検査することをお勧めします。								
中リスクの場合	差し迫って危険性はありませんが、高脂質血症、高血圧といった基礎疾患や動脈硬化性疾患になる可能性があります。人間ドック・健康診断を同時に受診された方はその結果も踏まえて医療機関にご相談ください。本検査単独で受診された方は、医療機関にご相談の上で、2次検査を受けるのか、生活習慣の改善に努めてください。								
低リスクの場合	引き続き定期的にLOX-index®を受診し、動脈硬化に伴う疾病リスクを確認してください。								
LOX-1を改善するために	LOX-1の値が高い方は血管の炎症が進んでいる傾向があります。								
基礎疾患をお持ちの方	<p>基礎疾患の治療に専念しましょう。</p> <p>高血圧や糖尿病などの疾患によって、LOX-1の値は高くなるといわれています。</p> <p>これらの疾患をお持ちの方は治療に専念することで、脳梗塞・心筋梗塞の発症リスクを下げることが期待できます。</p>								
基礎疾患がない方	<p>減塩・腹八分目の食事を心掛けましょう。</p> <p>血圧を下げるような食事療法は、LOX-1の値を下げる期待できます。普段の食生活から減塩、腹八分目を心掛けましょう。</p> <p>禁煙と適量な飲酒を心掛けましょう。</p> <p>喫煙はLOX-1の発生を促進してしまいます。また、過度なアルコール摂取はカロリーオーバーに陥る危険性があるので、適量な飲酒を心掛けましょう。</p>								
日々の生活の中に運動を取り入れましょう。	<p>肥満の状態では活性酸素が高まり、体内で炎症が進んでしまうため、適度な運動で減量しましょう。</p>								
LABを改善するために	LABの高い方は、体内の酸化ストレスが高い傾向があります。								
基礎疾患をお持ちの方	<p>基礎疾患の治療に専念しましょう。</p> <p>脂質異常症や糖尿病などの疾患によって、LABの値は高くなるといわれています。これらの疾患をお持ちの方は治療に専念することで、脳梗塞・心筋梗塞の発症リスクを下げる期待できます。</p>								
基礎疾患がない方	<p>抗酸化物質を含む食材を積極的に摂りましょう。</p> <p>別表の食材には抗酸化作用のあるビタミンA,C,E,βカロチン、葉酸、リコピン、コエンザイムQ10などの栄養素が含まれています。</p>								
抗酸化物質を含む食材を積極的に摂りましょう。	<p>バランスよく摂るようにしましょう。</p>								
禁煙と適量な飲酒を心掛けましょう。	<p>喫煙は体内の酸化ストレスを促進します。体内の酸化ストレスが進むことが動脈硬化につながりますので、禁煙をお勧めします。</p>								
またアルコールを代謝する際に大量の活性酸素を発生させますので、抗酸化作用のある食材と一緒に摂るように心掛けましょう。									